

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
筑波研究学園専門学校		昭和62年2月6日		野口 孝之		〒 300-0811 (住所) 茨城県土浦市上高津1601 (電話) 029-822-2452				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人筑波研究学園		昭和62年2月6日		佐久 芳夫		〒 300-0811 (住所) 茨城県土浦市上高津1601 (電話) 029-822-2452				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		ITデジタル学科		平成21(2009)年度		-		平成26(2014)年度	
学科の目的		ITの基礎から応用まで体系的に学べるカリキュラムにより、ロボット、IoT、AI、プログラミング、システム設計、情報セキュリティ、クラウド活用など専門性の高い技術を修得し、様々な業界で活躍できるIT・ICT・IoT人材の育成を目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		<取得可能な資格>応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、ITパスポート試験、CAD利用技術者試験2級								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,950 単位時間	930 単位時間	2,460 単位時間	150 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率			
110 人	81 人		19 人		23%		1 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		42 人							
	■就職希望者数(D)		35 人							
	■就職者数(E)		34 人							
	■地元就職者数(F)		28 人							
	■就職率(E/D)		97 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		80 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		81 %							
	■進学者数		6 人							
	■その他									
	(令和 7 年度卒業者に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等										
(令和7年度卒業生)										
サーマルエンジニアリング株式会社、株式会社ソフィア、株式会社ユードム、株式会社トヨタレンタリース茨城 他										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載					無				
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://tist.ac.jp/it-mechatronics/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数					1,950 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					330 単位時間				
	うち必修授業時数					450 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					330 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					120 単位時間				
	(B:単位数による算定)									
	総単位数					単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数					単位				
	うち必修単位数					単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					2 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					1 人				
	計					5 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「実学重視」をすべての学科における教育の基本と位置づけている。それを実現するため、時代の変化に的確に対応し、地域の産業界の発展に貢献する人材育成を目指し、関連する業界団体や企業の担当者との組織的な交流を通して、常に教育課程の改善を図ることを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

職業実践専門課程に求められる企業・業界団体等との密接かつ組織的な連携体制を確保して、授業科目の開設等の教育課程の編成に関する提案を行う。各学科は提案を参考に教育課程の編成を行い、授業科目や内容の見直しを進めると共に、即応可能な改善については順次授業に取り入れる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
鈴木 英利也	一般社団法人茨城研究開発型企業交流協会(IRDA) 副会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
高橋 裕信	株式会社アプライド・ビジョン・システムズ 代表取締役会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
田村 淳	関東情報サービス株式会社 科学技術推進部 部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
野口 孝之	学校法人筑波研究学園 理事 筑波研究学園専門学校 学校長		—
岡田 地余	筑波研究学園専門学校 ITデジタル学科 学科長		—
水越 武	筑波研究学園専門学校 教務部 部長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月下旬～8月下旬、1月下旬～2月中旬)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年7月28日 13:30～15:15

第2回 令和8年1月20日 9:30～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・Forms等のICTツールを取り入れた双方向型授業について、学生の意見をもとにシステムの課題分析や改善案を議論する学習活動が有効であるとの意見を受け、実践的な課題解決型学習の更なる充実に努めている。

・生成AI時代に対応した人材育成が重要との意見を受け、生成AIの活用方法に加え、成果物を評価・改善する力や論理的思考力を育成する教育内容の充実を検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・学内で行う実習について、企業等との連携により、実習内容の検討を行う。
- ・企業等から授業内容について意見を頂き、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルであるか評価していただく。
- ・安全衛生管理について、企業等における実践的な視点から指導していただく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・企業から派遣された講師と事前の打ち合わせを行い、授業内容、使用機材、製作課題、試験課題、課題の評価ポイントなどを定めている。
- ・授業においては、派遣講師が実習の指導を行うと共に、担当教員も学生の作業状況などを確認しフォローする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
システム設計	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	2年 AI・システム開発コース 前期 連携企業から提供いただいた具体的なシステム開発事例を用いて、設計書の作成・レビューを行う。	(株)アブリシエイト
システム開発a・b	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	2年 AI・システム開発コース 後期 連携企業から提供いただいた具体的なシステム開発事例を用いて、前期に作成した設計書をもとに、プログラムの作成・レビューを行う。	(株)アブリシエイト
WebデザインⅡ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	2年 DX・デザインコース 前期 連携企業のホームページを題材として、お客様目線で課題を整理し、ホームページの企画・制作を行う。企業をクライアントとし、企画・制作の一連について連携。	鶏優
卒業研究	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	2年 後期 2年間の集大成として、グループによる課題研究を行う。グループワーク、ディスカッション、ディベート等で精度を高める。	サーマルエンジニアリング(株)
企業実習	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	2年 後期 企業等の職場での現場実習を通して職業理解を深め、職業人としての心構えや仕事へ取り組む姿勢を学ぶ。	(株)アルコ・イーエックス、関東情報サービス(株)、関彰商事(株)、(株)ソフィア、筑波総研(株)、ティ・エス・ネットワークス(株)、他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

筑波研究学園教職員研修規程に基づき、教職員は専攻分野における職業教育の遂行上必要とされる実務知識や技術・技能及び学生に対する指導力等の修得・向上を図ることとしている。

ITデジタル学科においては所属する教員全員が、学科の対象となる専門分野について常に新しい情報が得られるように展示会や講演会、研修会に出席し、意見交換を積極的に行う。それぞれの教員が専門分野以外の情報も得る事により、学科内での意見交換を活発にし、様々な視点からものづくりを考える事が出来るように努める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	高度画像解析技術の最新動向	連携企業等:	株式会社アブライド・ビジョン・システムズ
期間:	令和7年8月19日(火)	対象:	常勤教員
内容	3次元画像処理システム等、画像センシング分野の最新技術について学ぶ。		
研修名:	AI × 変革 ～未来を語るビジネスカンファレンス～	連携企業等:	日本経済新聞社
期間:	令和7年8月27日(水)	対象:	常勤教員
内容	AIとデータを活用した最先端のビジネス戦略や、AIがもたらす新たな可能性について学ぶ。		
研修名:	システム導入事例から読み解く企業ニーズ	連携企業等:	関東情報サービス株式会社
期間:	令和7年9月29日(月)	対象:	常勤教員
内容	実際のシステム導入事例を通して企業課題の解決方法について学ぶ。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学校業務における生成AIの実践的な使い方	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和7年9月12日(金)	対象:	教職員
内容	学内の各部門で役立つ生成AIの実践的な使い方について学ぶ。		
研修名:	ハラスメント研修	連携企業等:	弁護士法人ひとりのフロンティア法律事務所
期間:	令和7年9月30日(火)	対象:	教職員
内容	ハラスメントについて理解を深め、学生・教職員に対する適切な接し方を学ぶ。		
研修名:	信頼と成長を引き出す対話の技術	連携企業等:	株式会社ライブリー
期間:	令和8年3月24日(火)	対象:	教職員
内容	教職員・学生・外部関係者等との適切なコミュニケーションの取り方について学ぶ。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	現場が変わる、仕事が変わる ― 生成AIとAIエージェント時代のものづくり	連携企業等:	株式会社アブライド・ビジョン・システムズ
期間:	令和8年7月2日(木)	対象:	常勤教員
内容	生成AI・AIエージェントの最新動向と、人とAIの役割分担について学ぶ。		
研修名:	中小企業のための「売れる強み」の見つけ方と伝え方	連携企業等:	茨城県産業技術イノベーションセンター
期間:	令和8年10月28日(水)	対象:	常勤教員
内容	「戦略5原則」及び「ビジネスモデルキャンバス」を活用したターゲット分析や強みの整理について学ぶ。		
研修名:	ライブ配信技術研修	連携企業等:	株式会社大鵬社
期間:	令和8年10月	対象:	常勤教員
内容	企業のライブ配信事例を通して、実践的な配信技術や運営方法について学ぶ。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	AL型学習やICTツールの活用による教育の質向上(仮称)	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和8年9月17日(木)	対象:	教職員
内容	AL型学習やICTツールの活用を通して教育の質向上を狙いとした指導方法を学ぶ。		
研修名:	製造業における人中心のAI活用システム設計	連携企業等:	(株)ナノオプト・メディア
期間:	令和8年9月3日(木)	対象:	常勤教員
内容	AL型学習やICTツールの活用を通して教育の質向上を狙いとした指導方法を学ぶ。		
研修名:	外国人対応力向上オンライン研修会	連携企業等:	茨城県
期間:	令和8年8月24日(月)	対象:	常勤教員
内容	在留資格制度の基礎知識から外国人相談対応の実践について学ぶ。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、卒業生、保護者、産業界有識者及び教育・学識経験者により構成する学校関係者評価委員会により行う。同委員会は、筑波研究学園専門学校が「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて行った自己評価をもとに学校評価を行い、その評価結果を学校の教育活動の向上および学校運営の改善に生かすことを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 専門分野における職業教育の特色は明確か。 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。 学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。
(2)学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか。 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。 人事、給与に関する規程等は整備されているか。 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。 授業評価の実施・評価体制はあるか。 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか。 教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか。
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか。 資格取得率の向上が図られているか。 退学率の低減が図られているか。 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。

(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 学生相談に関する体制は整備されているか。 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 課外活動に対する支援体制は整備されているか。 学生の生活環境への支援は行われているか。 保護者と適切に連携しているか。 卒業生への支援体制はあるか。 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか。 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 財務について会計監査が適正に行われているか。 財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 自己評価結果を公開しているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。
(11) 国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持つて国際交流を行っているか。 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。 学内で適切な体制が整備されているか。

※(10) 及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の提言を受け、AL型グループ学習やBYOD環境の導入・活用、DX授業のさらなる充実を進めている。

教育課程編成委員会で業界動向等の意見聴取を進め、令和8年度授業カリキュラムの一部を再構築した。□

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
小吹 公彦	学校法人 霞ヶ浦高等学校 進路指導部 専門学校担当	令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年)	教育関係者
鈴木 英利也	一般社団法人茨城研究開発型企業交流協会 副会長	令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年)	業界団体 (地元企業)
大武 勝	茨城県自動車整備振興会 土浦支所 教育課 課長補佐	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	業界団体
相澤 晴夫	株式会社 相澤建築設計事務所 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年)	地元企業
坂巻 操	筑波メディカルセンター病院 事務部医事外来一課課長	令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年)	地元企業
倉田 和典	社会福祉法人えがお 理事 施設統括部長 兼 法人事務部長	令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年)	地元企業
舘野 仁志	五監会会長(保護者会会長)	令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年)	保護者
笠間 俊雄	輝峰同窓会会長(卒業生代表)	令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tist.ac.jp/infomation/>

公表時期: 令和8年4月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿ったホームページによる情報公開に加えて、定期的な広報誌の送付などを通して、本校の教育活動を積極的に伝える。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校案内－学校の特長
(2) 各学科等の教育	学科・コース－学科概要、特色と未来像、コース紹介
(3) 教職員	学校案内－教員情報－組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学校案内－職業実践専門課程認定校／就職情報－インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校生活－キャンパスライフ、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学校生活－学生の一日
(7) 学生納付金・修学支援	入学案内－学費・奨学金のサポート
(8) 学校の財務	学校案内－学校の財務
(9) 学校評価	学校案内－学校自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	学校案内－留学生の皆様へ
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tist.ac.jp/infomation/>

公表時期: 令和8年4月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITデジタル学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザインⅠ	職業観を養い、自己分析・企業研究を行う。また、数的処理能力を強化する。	1前	60	2		○		○		○		○
2	○			キャリアデザインⅡ	就職活動に向けて、自己分析や一般教養試験対策、面接試験対策等を行う。	1後	30	1		○		○		○		○
3	○			ビジネス文書	社会人に必要なビジネス文書の基礎を学び、目的や相手に応じた表現力を身につける。	1後	30	1		○		○		○		
4	○			プレゼンテーション	説得力のある説明の仕方、PowerPointを用いた効果的な資料の作り方等を学ぶ。	2前	30	1		○		○		○		
5	○			タスクマネジメント	業務を円滑に進めるためのタスク管理の考え方と手法を学び、計画的に行動できる力を身につける。	2後	60	2		○		○		○		
6	○			ビジネス法規	働く上で必要な基礎的法律知識を学び、コンプライアンス能力を身に付ける。	2後	30	2	○			○		○		
7	○			プログラミング基礎	Python言語を学び、オブジェクト指向プログラミングの基礎と、整列や探索などのアルゴリズムを学習する。	1前	90	3		○		○			○	
8	○			データベース	リレーショナルデータベースの操作言語であるSQLを用いたデータ操作とデータベースの仕組み、管理方法について学習する。	1前	60	2		○		○		○		
9	○			テクノロジー	企業活動や経営戦略、法務、会計など、ITを活用したビジネス全体の仕組みを学ぶ。	1前	60	2	○			○		○		
10		○		ストラテジ	コンピュータの構成要素、OS、ネットワーク、データベース、セキュリティなど、IT技術の基礎を体系的に学ぶ。	1前	60	2	○			○		○		
11		○		日本文化 [ビジネスマナー]	社会人として必要な礼儀や言葉遣い、身だしなみ、来客対応などを学ぶ。	1前	60	2	○			○			○	
12		○		マネジメント	システム開発や運用に関わるマネジメント分野として、プロジェクト管理、サービスマネジメント、品質管理などを学ぶ。	1前	30	1	○			○		○		
13		○		日本文化 [文化の理解]	日本の社会制度や文化、生活習慣、行事などを学び、日本社会への理解と異文化理解を深める。	1前	30	1	○			○			○	
14		○		情報処理試験対策Ⅰ	情報処理関係の検定試験や経産省情報処理試験の合格に求められる基礎知識を習得する。	1前	90	3	○			○			○	

15		○	実務演習Ⅰ 〔日本語コミュニケーション〕	日本語能力試験合格に向け、漢字と語彙の学習、基本的な会話表現を学ぶ。	1前	90	3	○			○			○	
16		○	情報処理試験対策Ⅱ	コース別の目標資格（基本情報技術者試験・応用情報技術者試験、ITパスポート試験）に応じた試験対策を行う。	1後	##	4	○			○			○	
17		○	実務演習Ⅱ 〔基礎日本語・簿記会計〕	日本の社会で働くために必要な日本語能力とコミュニケーション力を身につける。また、簿記会計について学ぶ。	1後	##	4	○			○			○	
18		○	情報処理試験対策Ⅲ	目標資格の合格に向け、より高度な問題演習や総合的な試験対策に取り組む。	2前	##	4	○			○			○	
19		○	実務演習Ⅲ 〔基礎日本語・簿記会計〕	日本の社会で働くために必要な日本語能力とコミュニケーション力を身につける。また、簿記会計について学ぶ。	2前	##	4	○			○			○	
20		○	プログラミング応用	【AI・システム開発】 【IoT・ロボット】 マイクロコンピュータを使った制御プログラミングの技術を学ぶ。	1後	90	4		○		○			○	
21		○	WebデザインⅠ	【AI・システム開発、情報処理・デザイン】 HTML、CSSなどを学び、ユーザビリティの高いWebサイトを制作技術を学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
22		○	WebデザインⅡ	【AI・システム開発、情報処理・デザイン】 HTML、CSS、JavaScript等を学び、ユーザビリティの高いWebサイト制作技術を学ぶ。	2前	60	2		○		○		○		○
23		○	Linuxサーバー構築	【AI・システム開発】 サーバーの構築・運用方法、クラウド化やAWSなどのネットワーク技術を学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
24		○	Javaプログラミング	【AI・システム開発】 Java言語でのオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
25		○	AIプログラミング	【AI・システム開発】 画像認識や文字認識などAI技術を利用したプログラミングと、業界DXについて学ぶ。	2前	60	2		○		○		○		
26		○	モバイルアプリ開発	【AI・システム開発】 タブレットやスマートフォンなどのモバイル端末でのアプリケーション開発を学ぶ。	2前	60	2		○		○		○		
27		○	Webシステム開発	【AI・システム開発】 JavaやHTMLを用いたWebシステム開発技術について学ぶ。	2前	60	2		○		○		○		
28		○	システム設計	【AI・システム開発】 システム設計の工程についての基礎知識を学び、設計演習を行う。	2前	60	2		○		○		○		○
29		○	システム開発a	【AI・システム開発】 システム設計の工程に基づく設計及びプログラム実装方法を学ぶ。	2後	60	2		○		○		○		○
30		○	システム開発b	【AI・システム開発】 システム設計の工程に基づくプログラム実装からテスト・運用方法等を学ぶ。	2後	60	2		○		○		○		○
31		○	メカトロニクス	【IoT・ロボット】 センサー、アクチュエータ、マイコンを中心に、機械・電子・制御技術を学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		

32		○	制御プログラミング	【IoT・スマート】 センサーや機器の制御を通して、仕組みと実践的プログラミング力を身につける。	1 後	60	2		○		○		○		
33		○	C言語プログラミングⅠ	【IoT・スマート】 C言語を用いてアルゴリズムの基礎を学ぶ。	1 後	60	2		○		○		○		
34		○	C言語プログラミングⅡ	【IoT・スマート】 C言語の関数やポインタなどを用いて応用的なプログラミング技術を学ぶ。	2 前	60	2		○		○		○		
35		○	CAD・CAM	【IoT・スマート】 CADによる作図技術と3Dプリンタやレーザーカッター等を用いた製作技術を学ぶ。	2 前	60	2		○		○		○		
36		○	IoTシステム開発a	【IoT・スマート】 マイコンを用いてセンサーからのデータ受信やDBサーバーへの送信プログラムを学ぶ。	2 前	60	2		○		○		○		
37		○	IoTシステム開発b	【IoT・スマート】 マイコンを用いてセンサーからのデータ受信やDBサーバーへの送信プログラムを学ぶ。	2 前	60	2		○		○		○		
38		○	シーケンス制御	【IoT・スマート】 リレーシーケンス制御の回路演習を通して配線設計や作業技術を実践的に学ぶ。	2 前	60	2		○		○			○	
39		○	NCプログラミング	【IoT・スマート】 NC工作機械による加工技術、加工のためのNCプログラミングの基礎知識を学ぶ。	2 後	60	2		○		○			○	
40		○	組込プログラミング	【IoT・スマート】 マイコンを用いてC言語による組込システムのプログラミング技術を学ぶ。	2 後	60	2		○		○		○		
41		○	マーケティング	【情報処理・デザイン】 企業活動におけるマーケティングやリサーチの手法を理解し、企業活動の基本を学ぶ。	1 後	60	2		○		○			○	
42		○	コミュニケーション	【情報処理・デザイン】 顧客や企業との関係構築に必要なビジネスマナーやコミュニケーションを学ぶ。	1 後	60	2		○		○		○		
43		○	デジタル活用Ⅰ	【情報処理・デザイン】 ビジネスアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）の利活用技術を学ぶ。	1 後	90	4		○		○		○		
44		○	デジタル活用Ⅱ	【情報処理・デザイン】 Excel VBAやRPAツールを用いて、業務の自動化の基礎を学ぶ。	2 前	60	2		○		○		○		
45		○	デジタルマーケティング	【情報処理・デザイン】 SNSやスマートフォンなどのデジタルツールを活用したマーケティング手法を学ぶ。	2 前	60	2		○		○			○	
46		○	ベーシックデザイン	【情報処理・デザイン】 Illustratorの基本操作、デザインの基礎知識、画像の撮影・加工・編集方法を学ぶ。	2 前	60	2		○		○		○		
47		○	ビジネスプランニングⅠ	【情報処理・デザイン】 ビジネスフレームワークやプランニングの基礎を学び、企画立案の考え方を学ぶ。	2 前	60	2		○		○			○	
48		○	ビジネスプランニングⅡ	【情報処理・デザイン】 ビジネスフレームワークを活用し、企画内容の具体化や構成力を高める方法を学ぶ。	2 後	60	2		○		○			○	

49		○		動画制作	【情報処理・デザイン】 Webサイトなどのコンテンツとして用いる動画制作技術を学ぶ。	2 後	60	2		○		○		○		
50	○			卒業研究	学んだ知識・技術を活かして、2年間の集大成として、グループによる課題研究を行う。	2 後	##	6		○		○		○		○
51	○			企業実習	企業等の職場での現場実習を通して、職業人としての心構えや仕事へ取り組む姿勢を学ぶ。	2 後	90	2			○	○		○		○
52		○		資格対策Ⅰ	目標資格の対策問題の演習を行い、資格取得に必要な知識と理解を深める。	1 前	15	1		○		○		○		
53		○		資格対策Ⅱ	過去問題や演習問題を通して理解を深め、実践的な試験対策を行うことで合格に向けた知識と解答力を養う。	1 後	30	2		○		○		○		
54		○		情報活用Ⅰ	デジタルツールの活用方法を学び、情報の整理・分析・発信に必要な力を身につける。	2 前	15	1		○		○		○		
55		○		情報活用Ⅱ	各種デジタルツールやオンラインサービスを活用し、ビジネスで活用できるデジタル活用能力を高める。	2 後	30	2		○		○		○		
56		○		学外実践学習	企業や地域と連携した活動や学外での実践的な学習を通して、社会人として求められるコミュニケーション力や問題解決力を養う。	2 後	60	2			○		○	○		○
合計				56 科目				124 単位 (3540単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：当該学科の修業年限を在学し、学科が定める卒業基準を満たした者。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：授業科目の履修認定は、出席状況と日常の学習成果及び試験結果によ		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。